

さわかぜ

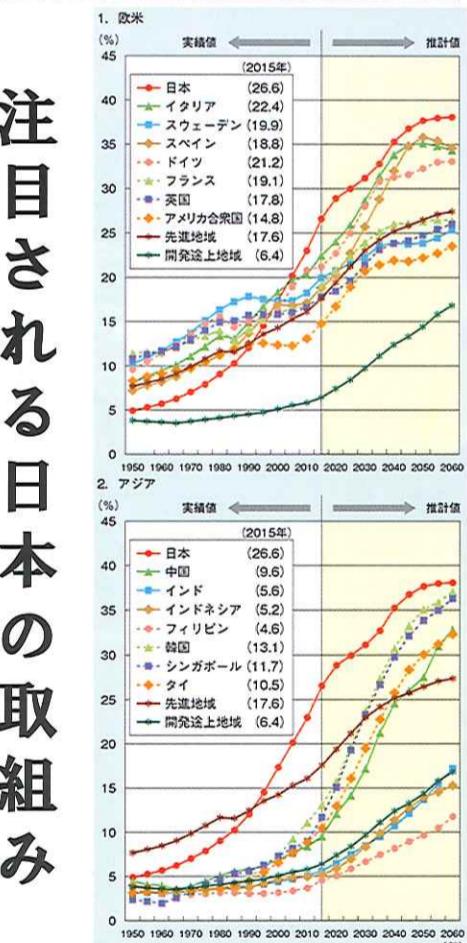
編集：三和地区社協事業部（研修・広報）
 発行責任者：三和地区社会福祉協議会
 会長 泉水 房治
 事務局：三和保健福祉センター内
 （サンハート内）
 電話：0436-37-7100

sanwa chiku-shakyo

WHO・世界保健機構は、各国の高齢者人口の推移を比較するために共通の定義を示しています。これによると、国全体に占める六五歳以上の高齢者の割合が、七%を超えた場合を「高齢化社会」と言います。日本では一九七〇年にこの七%のラインを超えました。さらに「高齢社会」になりました。

右グラフ赤の曲線が日本本の高齢者率推移です。総人口が減少することでも類を見ない「超高齢社会」と呼び、私たち日本は、世界で「高齢社会」から突破。この二一%をさらに二〇〇七年には「高齢化社会」となりました。

2.6に1人が65歳以上
4人に1人が75歳以上に



注目される日本の取り組み

右グラフ赤の曲線が日本本の高齢者率推移です。総人口が減少することでも類を見ない「超高齢社会」と

六五年には国民の二・六人に一人が六五歳以上、四人に一人が七五歳以上

になると推計されています。（出所・国立人口問題研究所）日本の取り組みが注目されています。

この先どうなる

超高齢社会

三和地区社会福祉協議会ネットワーク部会は、月二日・二八日の二日間に分け、「安心生活見守り支援事業」の具体的な手となる訪問員・六七名に対する基礎研修が実施されました。

研修の冒頭、挨拶に立ったネットワーク部会長谷氏は、活動の立ち上げに至る経過の説明に加え、「大切なことは、まず実践してみること。そして皆さんと共にこの活動を実のあるものへと育んでまいりましょう」と語り、事業の主役となる訪問員を

まずは実践！みんなで育む取り組みに

励されました。

実務研修では、活動の目的、具体的な取り組み方



【訪問員研修会で学ぶ地区代表のみなさん】

法、活動にあたっての注意事項等が説明され、取り分け訪問活動を通じて知り得た個々の情報について

また、受けた相談や心配ごとは、訪問員が抱える立場を確認しました。

相談機関へ繋ぐことで解決を目指すなど、訪問員の立場を確認しました。

また、受けた相談や心配ごとは、訪問員が抱える立場を確認しました。

相談機関へ繋ぐことで解決を目指すなど、訪問員の立場を確認しました。

安心生活見守り訪問員

67名 基礎研修を受講

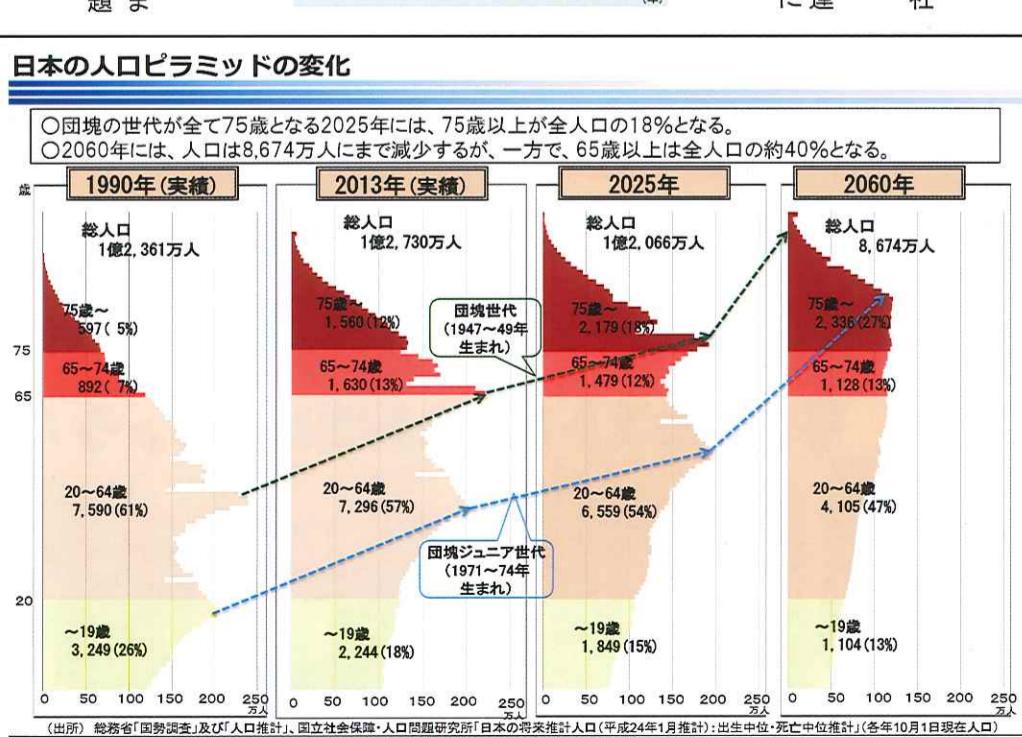
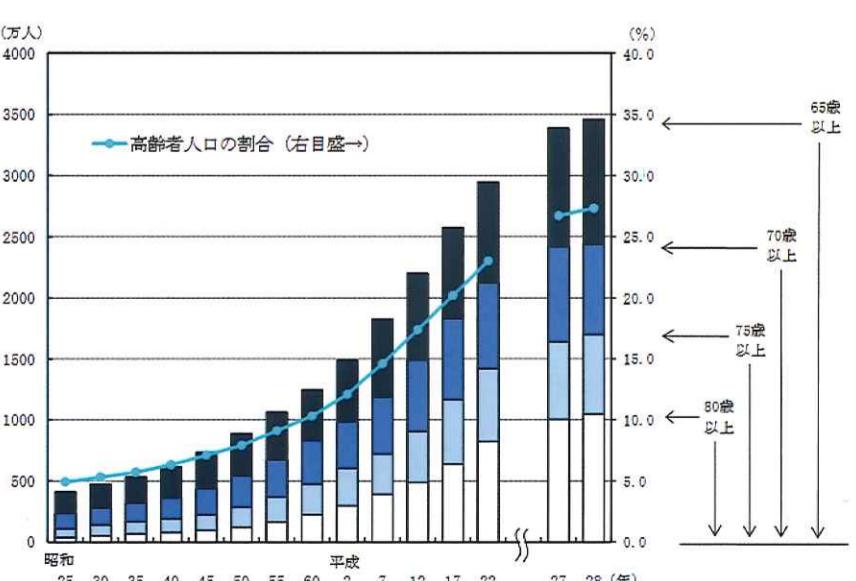
地域福祉の期待を担う

には大変お世話をしました。この経験を生かし、訪問員として高齢者の相談ごとに耳を傾け、必要に応じ、関係先へつなぐ役割を担えればと思う。

近隣を見ても高齢世帯の増加を肌身に感じる。今後、自身の活動は基に、継続的な取り組みと役割を担えればと思う。

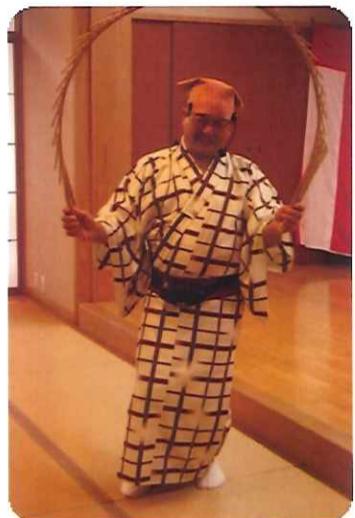
訪問員として耳を傾け、必要に応じ、関係先へつなぐ役割を担えればと思う。

高齢者人口および割合の推移（昭和25年～平成28年）



1月28日/華やかに開催

サンハートまつり



和室にてお茶会も行いました！

三和地区社協事業
子育てサロン「三和ぽかぽか」
に参加しませんか？



開催日:毎月第3水曜日(1月・8月はお休み)
時 間:10:00~11:30
会 場:サンハート(三和保健福祉センター)
対 象:未就学のお子さんと保護者



なかまづくりで、子育てのストレスを解消しましょう！



このお祭りは、サンハートを利用してサークル活動を行っていける皆さん、日頃の成果を広く地域住民の皆さんへ発表させて戴く場でもあります。地区社協として模擬店を出店し、事業協力をしました。

オープニングの江戸連メンバーによる勇壮な和太鼓演奏をかわいいに、発表会会場では、各サークルが踊りや演奏を披露し盛り沢山な内容でした。また、展示スペースには書道や手芸、絵画や俳句等素晴らしい作品が並び、おもちゃ図書館も大盛況で子供たちの人気の的となりました。

エントランスホールでは、地区社協の他に各福祉団体の皆さんによる模擬店の出店もあり、祭りに華を添えました。